

平成20年度 第二回VUV・SX高輝度光源利用者懇談会幹事会議事録

日時：平成20年11月4日（火）13：30～16：30

会場：東京大学物性研究所 6階 第2会議室

出席者：吉信 淳(会長、東大物性研) 雨宮健太(KEK) 上野信雄(千葉大) 尾嶋正治(東大)
小野寛太(KEK) 鎌田雅夫(佐賀大) 木下豊彦(SPring-8) 木村昭夫(広島大)
木村真一(分子研) 組頭広志(東大) 島田賢也(広島大) 辛 埴(東大物性研)
大門 寛(奈良先端大) 間瀬一彦(KEK) 原田慈久(東大) 堀場弘司(東大)

委任状：4通

オブザーバー：柿崎明人(東大物性研) 中村典雄(東大物性研) 松田 巖(東大物性研)

配布資料

- ・ 議事次第
- ・ 平成20年度第一回幹事会議事録

報告・議事

- ・ 東京大学放射光連携研究機構の現状、及びアウトステーションの利用計画について
 - (1) 尾嶋正治機構長、柿崎明人同機構物質科学部門長より、機構及びアウトステーション計画、全国共同利用体制の現状と今後の予定について報告がなされた。
 - 物質科学部門において、SPring-8の長直線部に軟X線アンジュレータとビームラインおよび分光光学系の建設、整備が始まっている。2009年度にはビームラインが完成し、高輝度放射光を利用した物質科学研究をスタートできる見込みである。
 - 機構のSPring-8オフィスが兵庫県のナノテク研究センターで運営を開始している。
 - 共同利用・連携体制は、「共同研究」「地域連携」「放射光連携」「国際連携」という柱からなるが、当懇談会幹事会での議論のもと共同利用委員会を設置し、実験課題申請、共同利用経費などについて具体的に検討を進めている。
 - 生命科学部門では、深井准教授の論文がNature誌に掲載された。
 - (2) 各サブグループの進捗状況の報告がなされた。
 - ・ ナノビーム高分解能光電子分光 ----- 組頭広志氏(東大工)
 - ・ 生体物質軟X線発光分光 ----- 原田慈久氏(東大工)
 - ・ 時間分解軟X線分光 ---- 松田 巖氏(東大物性研)

(3) 移相器 (phase shifter) の開発状況、今後の予定について、中村典雄氏 (東大物性研) より報告された。

- 物質科学アウトステーション共同利用体制について
大門寛計画委員長より、8月30日(土)の共同利用体制WG第一回会議で検討された利用体制について報告され、承認された。(実験申請、審査委員会、成果報告、共同利用経費などについて)
- 前回議事録の承認
平成20年度第一回VUV・SX高輝度光源利用者懇談会幹事会議事録が承認された。
- 平成20年度総会について
平成21年1月11日(日)12時より、東京大学本郷キャンパス小柴ホールにおいて平成20年度総会を開催し、ユーザーに向けて現状・今後の予定について報告するとともに検討の場とする。

(議事録事務局)